

# フリースクール等の 運営実態調査（結果） 抜粋版



2025年10月

# CONTENTS

---

|    |                            |    |
|----|----------------------------|----|
| 01 | 調査概要                       | 3  |
| 02 | 現状の全体像                     | 4  |
| 03 | アンケート結果（詳細）                | 10 |
|    | ①施設概要                      | 10 |
|    | ②活動内容                      | 15 |
|    | ③開所日数・時間                   | 20 |
|    | ④利用者の状況                    | 21 |
|    | ⑤卒業後の進路などの状況               | 26 |
|    | ⑥スタッフの状況                   | 26 |
|    | ⑦利用料                       | 28 |
|    | ⑧学校等との連携状況                 | 29 |
|    | ⑨不登校児童生徒が利用するに<br>あたっての課題等 | 32 |

# 01 調査概要

---

## 1 – 調査の主旨

---

本調査は、富山県内で活動するフリースクール等の経営状況や、利用する児童生徒や保護者への支援内容、学校との連携状況等を把握し、今後の支援のあり方を検討するために行うものである。

## 2 – 富山県の現状

---

- (1) 富山県の不登校児童生徒数
  - (R5) 小学生1,110人、中学生1,531人（近年は増加傾向）
- (2) フリースクール等通所児童生徒支援事業（富山県教育委員会）
  - (R6) 児童生徒184人の保護者へ助成

## 3 – 調査方法

---

### ■アンケート調査

期間：2025年6月4日～7月7日

対象：富山県内のフリースクール等 29施設・団体

方法：インターネット or 用紙(郵送)によるアンケート

### ■ヒアリング調査

期間：2025年6月4日～7月9日

対象：富山県内のフリースクール等 20施設・団体

方法：現地訪問、インタビュー

## 4 – 調査主体

---

富山県厚生部こども家庭室こども未来課（実施委託先：株式会社北陸博報堂）

※留意点：①回答内容は各団体の自己申告に基づく。  
②全国の数値は、フリースクール白書2022に基づく。

# 02 現状の全体像

本調査を通じて、運営上の課題や、こどもたちの学びや生活の様子など、現場のリアルな姿が明らかになってきました。

ここでは、調査結果をもとに見えてきた現状の全体像をご紹介します。

## 全体概要

### 1. フリースクール等こどもの居場所づくりの重要性

- ・近年、様々な理由により、**不登校の児童生徒は増加**傾向にある
- ・フリースクール等の学校外の施設は、学校に馴染めず**生きづらさ**を抱えたこどもの**サードプレイス**として、重要性が増している

### 2. フリースクール等こどもの居場所の機能

- ・居場所は、こどもにとって将来社会に出るための知識や、**人と繋がり自立するためのサポート**をすることが必要
- ・フリースクール等を利用する場合、学校等が適切に把握し、事業者とコミュニケーションをとり、**こどもと一緒に育む視点**が必要

### 3. 現状と課題

- ・フリースクール等は、実施主体・利用者数・開設形態は目的によって様々で、**事業者によってばらつきがあり多様である**
- ・調査を通じて明らかになった課題として、後述のとおり、**①財政的な不安定さ、②社会的認知の不足、③学校との不十分な連携、④地域格差とアクセスの問題、⑤新たに開設されたフリースクールが多く、現在は試行錯誤の段階**等が挙げられる

### 4. 今後の方向性と必要な視点

- ・背景は多様であるため、画一的ではなく、**施設の特性や状況に応じた柔軟な支援**が求められる
- ・フリースクール事業者の全体の底上げおよび質を高めるため、**ネットワークの構築と関係機関との情報交換が不可欠**
- ・同時に、必要な方へ適切な支援を届けるため、**多種多様なフリースクール等について情報発信が必要**

## 個別項目

### ①富山県のフリースクール等利用人数（のべ人数）

|      | 小学生  | 中学生  | 合計   |
|------|------|------|------|
| 利用者数 | 172人 | 106人 | 278人 |

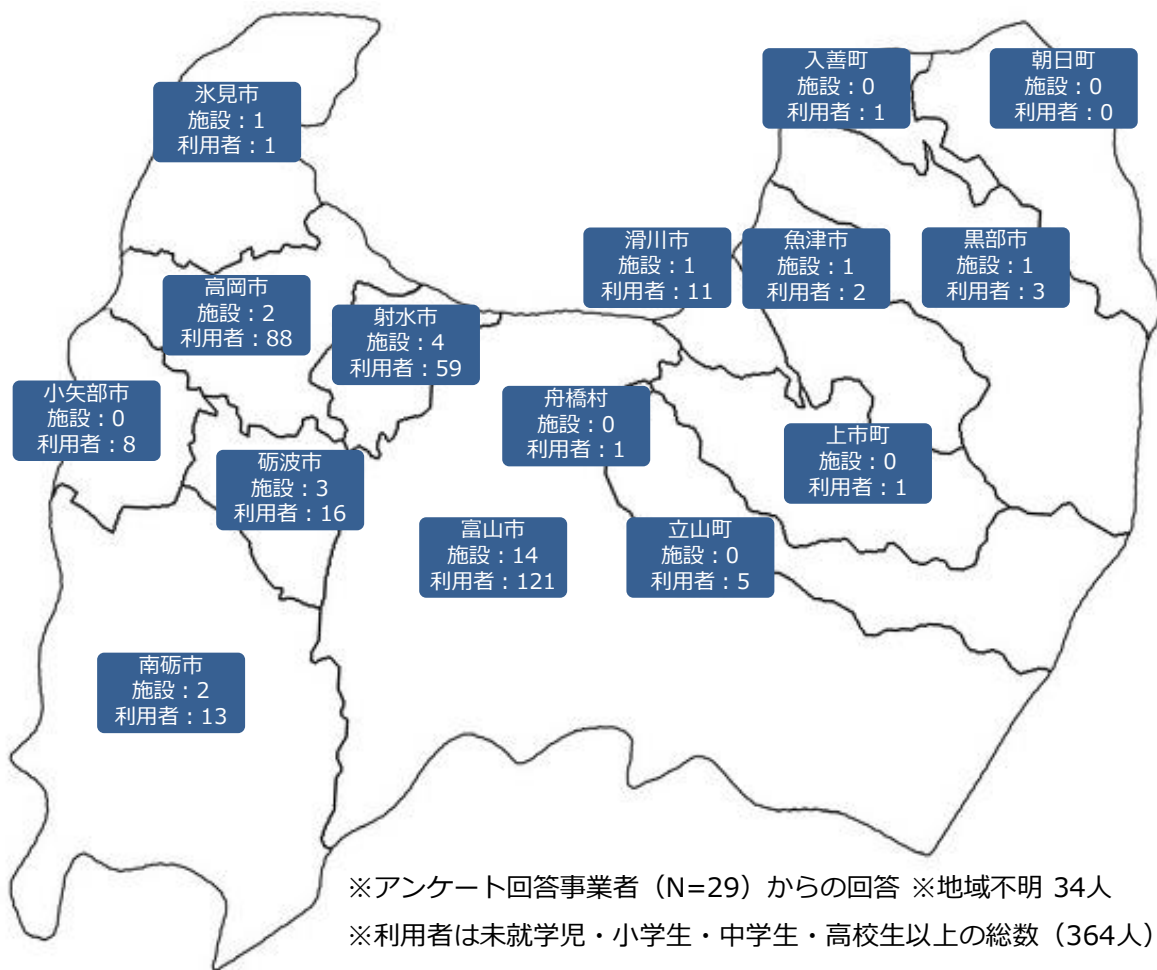
※【参考1】富山県の不登校児童生徒数：（R5）小学生1,110人、中学生1,531人（近年は増加傾向）

※【参考2】県内教育支援センターの利用者数：（R6）256人

※数値は、アンケート回答事業者からの申告。令和7年6月現在の利用者数（のべ人数）

※未就学児、高校生以上を含めると、合計364人

## ② フリースクール等利用者の地域別分布マップ



## ③ フリースクール等運営事業者の事業形態

|             | NPO法人          | 公益法人<br>一般法人       | 個人          | 株式会社<br>有限会社          | 親の会<br>(任意団体)         | その他法人      |
|-------------|----------------|--------------------|-------------|-----------------------|-----------------------|------------|
| 富山県         | 9箇所<br>31%     | 7箇所<br>24%         | 4箇所<br>14%  | 3箇所<br>10%            | 2箇所<br>7%             | 4箇所<br>14% |
| 全国<br>※割合のみ | NPO法人<br>42.6% | 公益法人<br>一般法人<br>不明 | 個人<br>19.1% | 株式会社<br>有限会社<br>16.4% | 親の会<br>(任意団体)<br>3.8% | その他<br>18% |

※形態は様々であるが、富山県でも全国でも最も多い形態は、NPO法人である。

#### ④ フリースクール等の設立目的

|                 | 居場所づくり             | 学校以外の<br>学びの場     | 自立支援                 | 保護者支援            | 地域振興                  | その他               |
|-----------------|--------------------|-------------------|----------------------|------------------|-----------------------|-------------------|
| 富山県             | <b>13箇所</b><br>45% | <b>8箇所</b><br>28% | <b>5箇所</b><br>17%    | <b>0箇所</b><br>0% | <b>0箇所</b><br>0%      | <b>3箇所</b><br>10% |
| 全国<br>※割合<br>のみ | 居場所づくり             | 塾が発展して            | 自分のこどもの通う<br>場をつくるため | 海外モデルに<br>触発されて  | 親の会の集まり<br>こどもの集まりが発展 | その他               |
|                 | 39.7%              | 14.1%             | 9.8%                 | 8.2%             | 12.5%                 | 15.7%             |

※「居場所づくり」が最も多く、富山県では45%を占める

※もともと、学習塾、放課後デイサービス、放課後児童クラブ、通信制高校等、教育事業や福祉事業を行っている団体が多い。

#### ⑤ 1施設あたりの利用者数

|     | 0人               | 1～5人               | 6～10人            | 11人～15人           | 16人～20人          | 21人以上             |
|-----|------------------|--------------------|------------------|-------------------|------------------|-------------------|
| 施設数 | <b>2箇所</b><br>7% | <b>13箇所</b><br>45% | <b>2箇所</b><br>7% | <b>4箇所</b><br>14% | <b>2箇所</b><br>7% | <b>6箇所</b><br>20% |

※利用する児童生徒数は「1～5人」が最も多く、45%を占める

#### ⑥ フリースクール等の財政規模

|                   | 50万未満              | 50<br>～100万未満     | 100<br>～250万未満    | 250<br>～500万未満     | 500<br>～1,000万未満   | 1,000万以上         |
|-------------------|--------------------|-------------------|-------------------|--------------------|--------------------|------------------|
| 富山県               | <b>12箇所</b><br>41% | <b>1箇所</b><br>4%  | <b>2箇所</b><br>7%  | <b>8箇所</b><br>28%  | <b>4箇所</b><br>14%  | <b>1箇所</b><br>3% |
| 富山県<br>※他事<br>業含む | 250万未満             | 250<br>～500万未満    | 500<br>～1,000万未満  | 1,000<br>～2,000万未満 | 2,000万以上           |                  |
|                   | <b>8箇所</b><br>27%  | <b>3箇所</b><br>10% | <b>4箇所</b><br>14% | <b>4箇所</b><br>14%  | <b>10箇所</b><br>35% |                  |
| 全国<br>※割合<br>のみ   | 250万未満             | 500万以下            | 1,000万以下          | 2,000万以下           | 2,000万<br>1円以上     |                  |
|                   | 28.3%              | 15.8%             | 29.2%             | 18.3%              | 8.3%               |                  |

※富山県：未回答1箇所（3%）あり

※活動場所は、すべての団体が、固定した常設スペースを持っていると回答

## ⑦開所日数（週あたり）

|             | 週1日               | 週2日              | 週3日               | 週4日              | 週5日以上              | 不定期              |
|-------------|-------------------|------------------|-------------------|------------------|--------------------|------------------|
| 富山県         | <b>4箇所</b><br>14% | <b>2箇所</b><br>7% | <b>3箇所</b><br>10% | <b>1箇所</b><br>4% | <b>18箇所</b><br>62% | <b>1箇所</b><br>3% |
| 全国<br>※割合のみ | 週1～2日<br>7.2%     |                  | 週3～4日<br>22.2%    |                  | 週5日以上<br>70.6%     |                  |

※週5日以上の開設が最も多いが、ヒアリングによると、児童生徒が毎日利用することは稀の場合もあり、週に1～3回程度の利用が多い。なかには1週間毎日通った後、1か月以上ずっと利用がない児童生徒もいる

## ⑧1日あたりの開所時間

|     | 1～2時間             | 3～4時間             | 5～6時間              | 7～8時間             | 9～11時間           | 11時間以上           |
|-----|-------------------|-------------------|--------------------|-------------------|------------------|------------------|
| 施設数 | <b>4箇所</b><br>14% | <b>5箇所</b><br>17% | <b>12箇所</b><br>41% | <b>4箇所</b><br>14% | <b>2箇所</b><br>7% | <b>2箇所</b><br>7% |

※「5～6時間」が最も多く、41%を占める

## ⑨ADHD、学習障害等の生きづらさを抱えた方の利用の有無

|     | 有                  | 無                 |
|-----|--------------------|-------------------|
| 施設数 | <b>23箇所</b><br>79% | <b>6箇所</b><br>21% |

## ⑩利用料について

1回 300円から、月額 58,000円と様々である。

## ⑪学校との連携について

|     | 必要                 | 不要                |
|-----|--------------------|-------------------|
| 施設数 | <b>26箇所</b><br>90% | <b>3箇所</b><br>10% |

## ⑫ スタッフの人員（ボランティア・嘱託等含む）

|     | 0～1人       | 2人        | 3人         | 4人         | 5人         | 6人以上        |
|-----|------------|-----------|------------|------------|------------|-------------|
| 施設数 | 4箇所<br>14% | 2箇所<br>7% | 4箇所<br>14% | 5箇所<br>17% | 3箇所<br>10% | 11箇所<br>38% |

※ 6人以上のスタッフが常駐している施設が、38%を占める

## ⑫' スタッフの人員（正社員のみカウントした場合）

|     | 0～1人        | 2人         | 3人         | 4人        | 5人        | 6人以上       |
|-----|-------------|------------|------------|-----------|-----------|------------|
| 施設数 | 14箇所<br>48% | 5箇所<br>17% | 4箇所<br>14% | 2箇所<br>7% | 0箇所<br>0% | 4箇所<br>14% |

## ⑬ スタッフの資格（複数回答可）

|     | 教員免許        | 福祉に関する資格    | 心理に関する資格   | その他        |
|-----|-------------|-------------|------------|------------|
| 施設数 | 21箇所<br>72% | 14箇所<br>48% | 6箇所<br>20% | 9箇所<br>31% |

※ 72%の施設に、教員免許を取得したスタッフがいる

## フリースクール等運営事業者からの意見

### 1. 在籍校との連携、不登校に対する理解

- ・ 学校との連携に抵抗感をなくしていただけると良い。学校と双方向の情報交換が定期的にできると嬉しい。  
アプリやメールなどを使って、学校の様子（授業の進捗状況や行事など）を知ることができれば助かる。
- ・ フリースクール等が、不登校児童生徒だけでなく、保護者も情報交換できる場として機能しているところもある。学校のSSWやSC等と繋がる機会があるとよい。
- ・ 不登校児童の件数のみならず、どの機関に繋がっているか等のデータを、関連機関のネットワーク会議などで、最低でも学期に1度共有して、支援のとりこぼしのないようにして欲しい。

### 2. フリースクール等間での連携について

- ・ フリースクール単体での経営は、なかなか難しい。ほかの事業と連携して経営していくことが課題。
- ・ フリースクール等同士での連携もできる場があるとよい。

### 3. こどもの居場所および多様な学び場についての情報発信

- ・ フリースクール等の利用について、対外的にもっとPRしてほしい。不登校になった際に、どうすればよいか分からないといった保護者の声を聞く。多様な学びの場として、フリースクール等があることを県民に知ってほしい。

### 4. 運営上の財政面における工夫

- ・ 収支をバランスよくしたい（赤字を小さくしたい）。国、自治体からの補助金があると嬉しい。
- ・ 「こどもの居場所」として、フリースクール等に公からの資金提供があれば、利用料を少し減額できる。経済的な理由で、利用を断念する保護者もいる。
- ・ 現在、運営は赤字なので、行政の支援拡充、補助金の活用等を積極的に働きかけていくと同時に、自主財源の確保を目指したい。不登校の児童が増えてから、場所を整備しては遅い。



## ○フリースクール等の運営における課題

### 1. 財政的な不安定さ

- ・運営主体が様々であり、また、利用料、助成金や寄付に依存しており、安定した収入源が確保しづらい。
- ・財政規模は千差万別であり、法定サービス化されていないため、持続可能性に課題。

### 2. 社会的認知の不足

- ・フリースクール等の存在や役割が一般に十分に理解されていない。
- ・県民向けの情報発信やフリースクール同士の意見交換の必要性がある。

### 3. 学校との不十分な連携

- ・在籍校との連携が不十分で、評価などで不利になるケースがある。

### 4. 地域格差とアクセスの問題

- ・富山市や県西部に多く、施設がない市町村もある。

### 5. 新たに開設されたフリースクールが多く、現在は試行錯誤の段階

- ・開設初期の事業者は、教育・福祉・経営に十分な経験がない場合もある。

## 【参考】フリースクール等の設立以降の経過年数 (N=29)

|     | 1年以下        | 2年         | 3年        | 4年        | 5年以上       | 10年以上      |
|-----|-------------|------------|-----------|-----------|------------|------------|
| 施設数 | 10箇所<br>34% | 5箇所<br>17% | 2箇所<br>7% | 1箇所<br>3% | 6箇所<br>21% | 5箇所<br>17% |

### 【参考：富山県こどもの居場所づくり支援事業】

不登校など様々な困難を抱えるこどもが、学校以外の居場所で安心して過ごせるよう、市町村との連携により、民間団体における「居場所の開設」や「特色ある取組み」を支援するもの。

#### 【事業内容】

- ①補助先：市町村
- ②補助対象事業者：不登校等、様々な困難を抱えるこどもの支援を行うことを目的としている団体
- ③補助率：（１）市町村は、事業の実施主体が、事業を実施するために必要な経費に対し助成  
（２）県は、市町村が実施する助成事業に対して、補助を行うものとする（市町村補助額の1/2）
- ④補助対象：（１）新たな「こどもの居場所の開設」（補助基準額：1箇所当たり50万円上限）  
（２）新たに実施する「特色ある取組み」（補助基準額：1箇所当たり10万円上限）